WS 6	世界最古の文学作品『ギルガメシュ叙事詩』を読んでみよう			
	【定員】30名 【受講料】 2年・1年会員ともに18,530円 聴講生20,080円			
	【歴史・文学・人間学】人間学ワークショップ 【時間】 毎回15時00分～17時00分（計12回）			
概要	シュメルの都市ウルクの王ギルガメシュをめぐる『ギルガメシュ叙事詩』は前19世紀から前3世紀まで読み継がれた楔形文字文学の傑作です。そこには現代に通ずる人間観や文明と自然の関係が素朴に描き出されています。講師による訳注付翻訳で物語をじっくり味わいながら、人間、社会、文明などについて一緒に考えてみましょう。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/10(木)	川崎市生涯学習プラザ	楔形文字文化の発達と古代メソポタミア文明史	立教大学・上智大学名誉教授 月本 昭男
2	4/17(木)		ギルガメシュ諸伝承と『ギルガメシュ叙事詩』の成立	
3	5/ 8(木)		シュメル都市文明と古代都市社会 — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第1、第2書板	
4	5/15(木)		死を恐れぬ英雄的人生観 — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第3、第4書板	
5	5/29(木)		怪物退治と森林破壊 — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第5書板	
6	6/5(木)		女神の誘惑という文学モチーフ — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第6書板	
7	6/12(木)		最愛の友の死と古代の友情物語 — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第7、第8書板	
8	6/26(木)		死の恐れと永生希求への旅立ち — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第9、第10書板	
9	7/3(木)		洪水伝承と人類生存危機の神話 — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第11書板	
10	7/10(木)		死後の世界をめぐる諸思想 — 標準版『ギルガメシュ叙事詩』第12書板	
11	7/17(木)		『ギルガメシュ叙事詩』と旧約聖書	
12	7/31(木)		『ギルガメシュ叙事詩』の現代性を考える	
連絡事項	月本昭男『ギルガメシュ叙事詩』（岩波書店、1996年）は絶版ですので、参加者には講師による改稿版を関連画像とともにコピーで配布します。 ※変更（4/4）：講師都合により上記赤字のように日程を変更しました。			